



H.Suga

THE NAKAYAMA KINEN

第98回 中山記念 (GII)

1着 本賞 67,000,000円 付加賞 1,134,000円
2着 27,000,000円 324,000円
3着 17,000,000円 162,000円
4着 10,000,000円
5着 6,700,000円



レース映像は
コチラでご覧
いただけます。

4歳以上、除え出走馬および未勝利馬

負担重量、4歳56kg、5歳以上57kg、牝馬2kg減、2023.2.25以降GⅠ競走(牝馬限定競走を除く)1着馬2kg増、牝馬限定GⅠ競走またはGⅡ競走(牝馬限定競走を除く)1着馬1kg増、2023.2.24以前のGⅠ競走(牝馬限定競走を除く)1着馬1kg増(ただし2歳時の成績を除く)

2024.2.25 中山 小雨・稍重 芝1800m (国際) (指定)

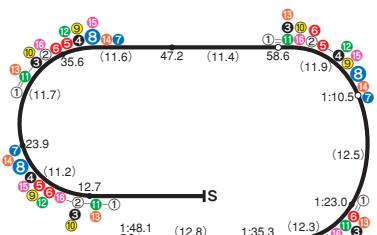
順位	馬番	馬名	性齢	斤量	騎手	タイム (着差)	コーナー 通過順位	上り (600m)	馬体重 (増減)	単勝 オッズ	調教師	レーティング
1	⑧	マテンロウスカイ	駆	57	横山典弘	1:48.1 3-3-3-2	37.2 484(+0)	16.17	松永幹夫(栗東)	114		
2	⑦	ドーブネ	牡	57	吉田隼人	2 1-1-1-1	37.9 470(-12)	35.60	武幸四郎(栗東)	110		
3	④	ジョグリフ	牡	58	戸崎圭太	クビ 4-5-6-4	37.3 516(+12)	10.04	木村哲也(美浦)	112		
4	③	ソールオリエンス	牡	58	田辺裕信	% 11-12-13-12	36.4 466(+0)	3.41	手塚貴久(美浦)	113		
5	⑯	マイネルクリソーラ	牡	57	津村明貴	1% 14-14-13-14	36.6 460(+2)	63.30	中野栄治(美浦)			
6	⑪	タイトムウェーヴン	牡	6	大野祐弥	% 14-14-13-12	36.7 494(+4)	201.50	戸田博文(美浦)			
7	⑨	エルトンバローズ	牡	57	西村淳也	クビ 6-5-4-4	38.0 522(+8)	3.52	杉山晴紀(栗東)			
8	⑯	ホウオウリアリティ	牡	57	菅原明良	1% 10-10-11-9	37.3 486(+0)	311.00	高木 登(美浦)			
9	⑩	ラーグルフ	牡	57	三浦皇成	% 11-12-11-9	37.4 502(+2)	38.70	宗像義忠(美浦)			
10	⑫	ボーンティスウェイ	牡	57	木幡巧也	1 8-7-6-6	38.2 494(+4)	35.70	牧 光二(美浦)			
11	⑤	ヒシイグアス	牡	58	R.キング	ハナ 6-7-8-9	37.9 498(+13)	7.20	堀 宣行(美浦)			
12	②	ソーサーリアント	牡	6	武 豊	アマ 11-10-9-6	37.8 520(+22)	11.16	大竹正博(美浦)			
13	⑯	エワヤン	牡	57	M.デムロ	クビ 2-2-2-2	38.8 492(+2)	33.20	伊藤大士(美浦)			
14	⑯	テーオーシリウス	牡	57	永野猛哉	4 4-3-4-6	39.2 472(+4)	172.00	奥村 豊(栗東)			
15	①	レッドモーンレーヴ	牡	58	横山和生	4 16-16-16-16	37.2 512(+14)	17.20	蛇名正義(美浦)			
16	⑯	イルーシブパンサー	牡	57	岩田望來	大差 8-9-9-14	42.3 484(+4)	11.30	久保田貴士(美浦)			

単勝①1,610円(7%) 複勝⑧510円(7%) ⑦840円(12%) ④410円(5%) 枠連④-④17,570円(31%)

馬連⑦-⑧17,350円(46%) ワイド⑦-⑧4,520円(48%) ④-⑧2,650円(32%) ④-⑦5,950円(57%)

馬單⑧-⑦33,850円(91%) 3連複④-⑦-⑧72,980円(188%) 3連単⑥-⑦-⑧542,050円(1,160%)

5重勝④-⑥-⑩-①⑧1,866,620円(247票) 対象競走: 阪神10R/中山10R/小倉11R/阪神11R/中山11R



通過タイム: 600m 800m 1000m
上り: 800m 600m
通過タイム: 35.6 - 47.2 - 58.6
上り: 49.5 - 37.6

アラカルト

- 横山典弘騎手はダノンキングリーで制した20年に続く中山記念6勝目で、自身の持つ本競走の最多勝利騎手記録を更新。
- また56歳0力3月での勝利は騎手のJRA重賞最年長勝利記録。JRA重賞は通算187勝目
- 松永幹夫調教師は中山記念初勝利。JRA重賞は通算23勝目
- モーリス産駒はJRA重賞通算17勝目
- 駆馬の勝利は02年トウカイポイント以来22年ぶり、通算2回目
- 枠連17,570円、ワイド5,950円、3連複72,980円、3連単542,050円は各式別における本競走の最高払戻金額
- 非抽選馬 2頭(グリューネグリーン、ショウナンマグマ)
- マテンロウスカイは大阪杯(GⅠ)に優先出走できる

マテンロウスカイ Matenro Sky

驅 栗毛 2019.2.5生
北海道安平町 ノーザンファーム生産
馬主・寺田千代乃氏 栗東・松永幹夫厩舎
馬名意味・摩天楼+空

ディクシースプラッシュUSA系 F3-d		
モーリス 鹿毛 2011	スクリーンヒーロー 栗毛 2004	グラスワンダーUSA ランニングヒロイン
	メジロフランシス 鹿毛 2001	カーネギーIRE メジロモントレー
レッドラヴィータ 栗毛 2011	スペシャルウィーク 黒鹿毛 1995	サンデーサイレンスUSA キャンベンガール
	ディクシージャズ 鹿毛 1999	トニービンIRE ディクシースプラッシュUSA

5代までのインブリード: サンデーサイレンスUSA M3×S4
Northern Dancer S5×M5

INTERVIEW

高見 優也厩舎長(ノーザンファーム空港)

いい乗り味をしていました

育成時からテンションは高めながらも、いい乗り味をしていました。昨年の夏は牧場で調整を行ったのですが、2歳時よりも動きがしっかりとしており、去勢の効果もあったのか以前より落ち着きも出ていました。4度目の重賞挑戦となりましたが、マテンロウスカイをよく知る横山典弘騎手が、馬の気持ちを尊重してくれたことが勝利につながったと思います。



大阪杯の前哨戦と位置付けられていた中山記念の「双璧」と目されたのは2頭の4歳馬。皐月賞を豪快に差し切った後は、悔しい足踏みが続いた昨年からの巻き返しを期すソールオリエンスと、一線級の古馬を下して毎日王冠と優勝、続くマイルチャンピオンシップでも4着に食い込んだエルトンバローズが1、2番人気を分けた。昨年は隔年制覇を達成、今年は連覇と「中山記念3勝目」に挑む8歳の古豪ヒシイグアスが2頭に次ぐ支持を集めたものの、レースの上位は5歳馬が独占。このうち、惑星候補の1頭と目されていたマテンロウスカイが堂々の取り口で勝利を飾り、重賞初制覇を果たした。

2歳夏の初陣を5馬身差で圧勝し、前途に期待が膨らんだ本馬だが、気性難も響いて足踏みが続き、3歳時の秋に去勢。その効果が出始めた昨年の秋頃から落ち着きを増して軌道に乗り、暮れのリゲルSでオープン初勝利を挙げた。5歳初戦の東京新聞杯は5着に敗れたものの、この日は2日前に56歳の誕生日を迎えたベテランのリードに応えて鮮やかに変身。天空に向けて躍の一歩を踏み出した。

父モーリス

北海道日高町 戸川牧場生産 中央、香18戦11勝(天皇賞(秋)G1、香港C6、香港マイルG1、チャンピオンズマイル・香G1、安田記念G1、マイルチャンピオンシップG1)、年度代表馬、最優秀短距離馬、特別賞、17年から日、豪で供用〔代表産駒〕ヒトツ Hitotsu(ヴィクトリアダービー・豪G1、オーストラリアンギニー・豪G1、ATCダービー・豪G1)、マズ Mazu(ドゥームベーン10000・豪G1)、ジャックドール(大阪杯G1)、ピクシーナイト(スプリンターズS G1)、ジエラルディーナ(エリザベス女王杯G1)、ノースブリッジ(アメリカジョッキークラブC G1)、マテンロウスカイ(本馬)、ディヴィーナ(アイルランドトロフィー府中牝馬S G1)、シュラウス(東京スポーツ杯2歳S G1)、シグルビンクルビー(フィリーズレビューG1)、バンクマウア Bank Maur(アリスタークラークS・豪G2)、他に重賞勝ち馬多数

母レッドラヴィータ

北海道安平町 ノーザンファーム生産 中央25戦3勝

ペストシンガー(18 牝父ロードカナロア)中央12戦1勝

マテンロウスカイ 本馬(19 驅父モーリス)中央17戦5勝(中山記念G1、リゲルS・L、難波S、メイS G2着、エブソムC G3着、野路菊S G3着)

獲得総賞金178,951,000円

デュメイカズマ(20 牝父ハービンジャーGB)中央7戦0勝、地方5戦1勝

キャネル(21 牝父ブリックスアンドモルタルUSA)中央4戦0勝(22 牝父ドレフォンUSA)

(23 牝父モーリス)

祖母ディクシージャズ

北海道早来町 ノーザンファーム生産 中央0勝。15年死亡

アドマイヤプレミア(07 牝父クロフネUSA)中央2勝

レッドディヴィス(08 驅父アグネスティキオン)中央5勝(鳴尾記念G3、毎日杯G3、シンザン記念G3、大阪一ハンブルクC G3)

レッドヴォーグ(09 牝父シンボリクリスエスUSA)中央0勝、ギャレット(若鮎賞)の母

ヒカルエリントン(10 牝父ダイワメジャー)中央1勝、地方3勝

レッドラヴィータ(11 前出)

ピッティカート(13 驅父ゼンノロブロイ)中央3勝(萬代橋特別)、地方0勝

曾祖母ディクシースプラッシュUSA

北米6勝(オーデュボンオーカス2着、オークローンBCH G3着)、97年輸入、09年死亡、デルタブルース(メルボルンC・豪G1、菊花賞G1)の母

堂々の取り口で重賞初制覇を果たす

大阪杯の前哨戦と位置付けられていた中山記念の「双璧」と目されたのは2頭の4歳馬。皐月賞を豪快に差し切った後は、悔しい足踏みが続いた昨年からの巻き返しを期すソールオリエンスと、一線級の古馬を下して毎日王冠と優勝、続くマイルチャンピオンシップでも4着に食い込んだエルトンバローズが1、2番人気を分けた。昨年は隔年制覇を達成、今年は連覇と「中山記念3勝目」に挑む8歳の古豪ヒシイグアスが2頭に次ぐ支持を集めたものの、レースの上位は5歳馬が独占。このマテンロウスカイが堂々の取り口で勝利を飾り、重賞初制覇を果たした。

軽快なダッシュで飛び出したドーブネーが、他の逃げ候補の機先を制して先手を奪取。降り続く小雨の影響で走馬場(稍重)に速いラップを刻んでレースを引張る。マテンロウスカイの横山典弘騎手は3番手のインに收まり、エルトンバローズが背後の5番手を追走。直後の中団についた5歳の皐月賞馬ジオグリフとヒシイグアスに対し、エルトンバローズが背後の5番手を置かれ気味に後方4番手を進んだ。ぬかるんだ馬場に苦しんだエルトンバローズ、ヒシイグアスは早々に手応えを失って失速。ソールオリエンスもエンジンのかかりが遅く、迎えた直線は単騎で快調に逃げたドーブネーと、4コーナーでこれに並びかけていったマテンロウスカイ、ジオグリフの争いに。2着に粘り込んだドーブネーに2馬身差をつけてゴールに飛び込んだ。